

平成28年度 2学年 社会科 シラバス（学習案内）

1. 社会科の目標

社会科は、社会的なことがらについて、自分なりに考えて、意見を述べたりする能力と生きた知識を身につけ、自分なりの判断力が持てるよう、自らの問題を見出して自ら解決してゆく力をつけることを目的としています。2年生では、1年生の時に身に付けた基礎を発展させ、資料の読み取りと自分でまとめたりする場面が増えます。資料を読み取る中で自分の意見を導き、発表したり、まとめたりできることが学習の目標となります。

最終的には、社会の問題について自分で考え問題を解決する力をつけることを目指します。

2. 社会科の評価の観点と評定の出し方

○ 関心・意欲・態度

社会的事象への関心を持ち、その課題に意欲的に取り組み、よりよい社会について考えていこうとする姿勢が見られるかどうか。



授業への参加態度が積極的であるか。具体的には授業の準備がきちんとできているか。作業への取り組みの姿勢、授業中の発言の積極性、提出物等の期限を守れたか、またその取り組みは積極的かどうかなどで評価します。

○ 社会的事象に対する、思考・判断・表現

社会的な事柄について、自分で問題を見つけ、それについて多面的、多角的に考え、公正に判断し、適切に表現することができるか。



授業中の発言内容やレポートなどの内容やまとめ方、また定期テストの中の思考判断などを評価するための問題の点数などで評価します。

○ 資料活用の技能

各種の資料（教科書・資料集・地図帳・その他の資料）を適切に選択し、効果的に活用できる。



レポートやプリント、ノートの活用状態、定期テストにおける資料活用の技能を評価する問題の点数などで評価します。

○ 社会的な事象に関する知識・理解

社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。



主として定期テストで評価しますが、授業中の発言内容なども加味します。

それぞれの観点について A →よくできている、B →おおむねできている、C →改善すべき点が多い。で評価します。

評定の目安は、

- 5 →すべての観点で A 評価である。
 - 4 →最低2つ以上の観点で A 評価で C 評価がない。
 - 3 →C 評価が1つ程度まででおさまっている。
 - 2 →いずれかの観点で C 評価以外の評価がある。
 - 1 →すべての観点で C 評価である。
- ただし、これはあくまでも、目安です。

28年度2学年社会科学学習案内

月	学習項目	学習内容
4月	歴史第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2 江戸幕府の成立と鎖国 江戸幕府の成立と支配のしくみ さまざまな身分とくらし	歴史分野
5月	貿易の振興から鎖国へ 鎖国下の対外関係 3 産業の発達と幕府の動き 農業や諸産業の発達 都市の繁栄と元禄文化 地理第1編 第3章 世界の諸地域 1 アジア州 急速に進む成長と変化 2 ヨーロッパ州 国どうしの統合による変化	歴史分野
6月	3 アフリカ州 主な生産品にたよる生活からの変化 4 北アメリカ州 さかんな農業や工業の特色 5 南アメリカ州 進展と環境問題	
7月	6 オセアニア州 強まるアジアとの結びつき 地理第1編 第4章 世界のさまざまな地域の調査 いろいろな視点で国・地域の調査	
9月	地理第2編 第3章 日本の諸地域 1 九州地方 環境問題・環境保全に向き合う人々のくらし 2 中国・四国地方 都市と農村の変化と人々のくらし	
10月	3 近畿地方 歴史の中で形づくられてきた人々のくらし 4 中部地方 活発な産業を支える人々のくらし 5 関東地方 さまざまな地域と結び付く人々のくらし	地理分野
11月	6 東北地方 伝統的な生活や文化を守り育てる人々のくらし 7 北海道地方 雄大な自然とともに生きる人々	
12月	歴史第4章 近世の日本 3 産業の発達と幕府の動き 享保の改革と社会の変化 幕府政治の改革 新しい学問と化成文化 外国船の出現と天保の改革 歴史第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米の進出と日本の開国 近代革命の時代 産業革命と欧米諸国 ヨーロッパのアジア侵略	
1月	開国と不平等条約 江戸幕府の滅亡 2 明治維新 新政府の成立 維新の三大改革 文明国をめざして 近代的な国際関係 民権運動の高まり 立憲国家の成立	歴史分野
2月	3 日清・日露戦争と近代産業 欧米列強の侵略と条約改正 日清戦争 日露戦争 韓国と中国 産業革命の進展 近代文化の形成 歴史第6章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦とアジア・日本 第一次世界大戦とロシア革命	
3月	国際協調の高まり アジアの民族運動 大正デモクラシー 広がる社会主義運動 都市化と大衆化	